

インターホン通電表示灯の色嗜好に関する検討

100430020 梅田智仁

川澄研究室

1. はじめに

インターホンの玄関子機（図1）では通電表示灯（以下、『夜の目』）が常に点灯しており、特に夜間は玄関でインターホンの位置を示す役割を担っている。本研究では『夜の目』に使われているLEDの点灯色や点灯位置についてユーザの嗜好を調べた結果を報告する。



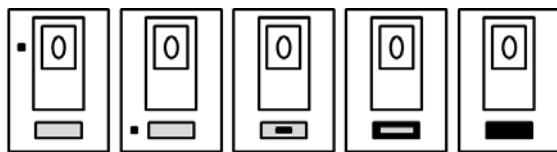
図1 インターホン

2. 実験方法

点灯色は赤、橙、緑、青、白の5色、また、点灯位置はカメラの横、ボタンの横、ボタンの中心、ボタンの枠、ボタン全体の5種類（図2；点灯部を黒で示す）を用意した。なお、点灯位置の実験は、低輝度の赤および高輝度の赤の2ボタンで実施した。実験部屋には、インターホンのモックアップを横一列に設置し（図3）、色と位置の実験を別々に行った。夜間の玄関を想定し、周辺の照度は1~2LUXにした。

色の実験では「目立ちやすさ」「『夜の目』としてのふさわしさ」「『夜の目』としての好感度」を順位法で評価した上で、各色にあてはまる印象を評価用語の一覧（上品な、温かななど）から選択する。位置の実験では「呼出ボタンの気づきやすさ」「『夜の目』としての好感度」を順位法で評価する。

被験者は、社会人45名、高齢者18名、学生27名、計90名の協力を得た。



カメラの横 ボタンの横 ボタンの中心 ボタンの枠 ボタン全体

図2 『夜の目』の点灯位置5種類



図3 実験機材の全体

3. 実験結果

点灯色については、まず「目立ちやすさ」は赤と青が高く白が低い傾向がみられた。続いて「『夜の目』としてのふさわしさ」の結果について、順位の平均値

を見たところ、赤、橙、青の順であった（図4）。ただし、橙と青は似た平均値でありながら、票を集めている順位が異なることが分かった。一方「『夜の目』としての好感度」は、青が高く赤が低い評価となった（図5）。ヒヤリングの結果、青は先進性、カッコいいなどの印象が強いのにに対し、赤は危険、警告などの印象を持たれやすく好感度が下がったと考えられる。

点灯位置については、低輝度においてボタン全体が光るケースの評価が高かったが、高輝度では敬遠される傾向がみられた。

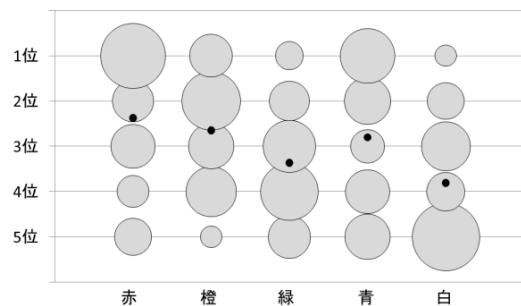


図4 点灯色の「『夜の目』のふさわしさ」

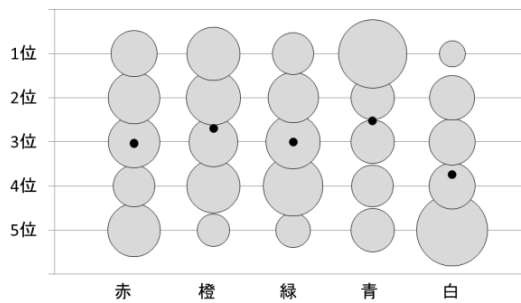


図5 点灯色の「『夜の目』の好感度」

4. まとめと今後

点灯色は「目立ちやすさ」と「好感度」において青の評価が高く、「ふさわしさ」に対しては支持が上位と下位に分かれた。今後は、点灯色と点灯位置を組み合わせた実験も試みたい。

謝辞

研究企画、評価実験にご協力いただいたアイホン株式会社の皆様、評価実験にご参加いただいた長久手市シルバー人材センター登録の皆様、名城大学職員の皆様に深く感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 神作 博：安全における色彩のはたらき，日本色彩学会誌，Vol.32，No3，pp196-204(2008)
- [2] 落合 信寿：安全色の有効性に関する研究の動向，日本色彩学会誌，Vol.32，No3，pp216-222(2008)